

和歌山高等学校

実施日時 令和3年 12月 8日(水) 13時20分～14時10分

参加者 生徒150名、教職員9名、計159名

実施内容 防災講話

ねらい

- 1 自然災害等の現状及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。
- 2 地震、台風発生、異常気象等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
- 3 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

主なプログラム

災害講習(講演)

概要

今年度も、コロナの影響で3学年一斉に集めることやグループワークなどもできないため、当初1学年ごとの講演を予定していたが、9月以降の分散登校等で予定が変わり、今年度は2学年のみの実施となった。講師として和歌山県土砂災害啓発センターの岸畑さん、那智勝浦町の防災士久保さんに来ていただいた。岸畑さんからは紀伊半島大水害の被害の状況とその原因等について説明していただいた。久保さんからは紙芝居を使って紀伊半島大水害の自らの体験を話していただいた。久保さんは近親者を亡くし、自身も水害の被害に遭ったことを臨場感の

ある語り口で語ってくれた。

参加者感想文

・2年 女子

今まで地震や津波、土砂災害などを軽く見てしまっていて防災のことはあまり考えていませんでした。ですが、今回の講演で実際に体験された方の話を聞き、すごく怖くなりました。作り話ではなく本当に起きた話なので、体験された久保さんの立場になって考えると大切な家族を亡くし近所の人も亡くなってしまい想像できないくらいに辛いことだなと思いました。娘さんだけでも助かって本当に良かったです。二度と同じようなことを起こさないために若い私たちが災害のことを重く考え、防災に取り組みなければいけないと思いました。災害が起きたときどうするかを話し合いたいと思います。

・2年 女子

今回の講演を聞いて感じたことは、やはり災害というものは怖いということです。和歌山では南海トラフなどで地震が来ると言われていますが、講演を聞いたら災害が身近に感じました。すぐに避難ができるように準備などをして、自分の身は自分で守れるように家族などでしっかり対策などをしていきたいと思います。

・2年 女子

講演を聞いて改めて命の大切さを学びました。津波から身を守るためには、いち早く避難

しなければならない。そのためには、日頃からの準備が必要だと学びました。今日帰ったら、準備や家の人に今日学んだことを伝えようと思いました。避難するときは落ち着いて行動することは大切だと思いました。

成果と課題

【成果】

- 改めて自然災害の脅威を感じさせられ、日頃の防災に向けての準備と出来るだけ早い避難の大切さを知ることができた。
- 危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動について考えられるようになった。また、日常的な備えの必要性について学んだ。

【課題】

- 今回、講演のみの学習で、グループワークなどを通じた体験的な学習ができればさらに効果的であったように思う。
- 今年度はコロナの影響で保護者、地域住民の方の参加の声かけができなかった。今後この状況がどうなるか分からないが、保護者や地域住民の方々と共に地域の防災について考えていく必要がある。

